

石垣市

さき えだ あか さき  
**崎枝赤崎**  
かいづか  
**貝塚**

石垣市崎枝



24° 26' 7.08" N  
124° 6' 16.3" E



用語解説

●屋良部半島

石垣島の最西端にあり、北に底地湾、南に名蔵湾がある。

●低地砂丘上

強い風により海岸の砂が吹きあげられてできる小さな低い丘。

●開元通宝

中国の唐代(618~907年)に铸造された銅銭。仲間第一貝塚(西表島)の他、沖縄諸島では8遺跡から発見されている。

中国で使われていたお金が、石垣島で見つかったんだね。どのようにして渡ってきたんだろうね。

シャコガイ製の貝斧のほか、シェルディスク(円盤状製品)、スイジガイ製の利器が出土しているのだよ。また、出土した石斧には長さが26cmあるものもあったのだよ。



【参考文献】

- ・石垣市教育委員会. 1987. 『崎枝赤崎貝塚』.
- ・大濱永亘. 1999. 『八重山の考古学』. 先島文化研究所.
- ・石垣市総務部市史編集課編. 2009. 『石垣市史考古ビジュアル版 第3巻』.

遺跡遠景



崎枝赤崎貝塚は、屋良部半島東南の低地砂丘上に形成された遺跡です。1985・1986(昭和60・61)年に行われた発掘調査の結果、この貝塚は土器を伴わない先島先史時代無土器期の遺跡であることが分かりました。発掘調査では、石斧やシャコガイ製の斧(貝斧)、硬い食材をすり潰すための石器(磨石)等の遺物が得られました。

中でも特徴的なのが、中国唐時代の銭貨「開元通宝」が27枚もまとまって出土したことです。開元通宝は、7世紀~10世紀頃に中国や東南アジアで広く流通したお金です。この発見により、石垣島をはじめとする八重山諸島も、先島先史時代無土器期の頃から、中国等外部との接触があったことが明らかとなりました。



石斧・貝斧・貝製品

発掘調査区全景



石垣島の名蔵湾を眼下に望む無土器期の遺跡

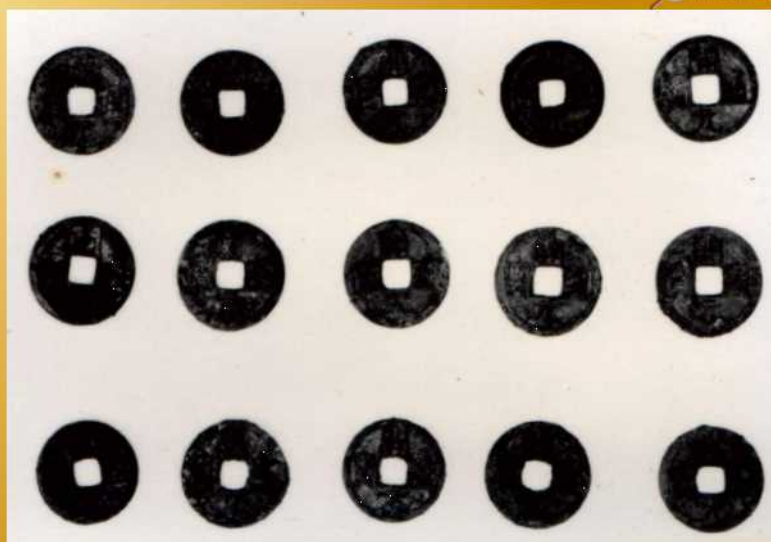


錢貨出土状況

開元通宝



開元通宝



# 石垣市 ピロースク 遺跡

石垣市字新川



24° 20' 58.55" N  
124° 9' 14.46" E



## 用語解説

### ●玉類

翡翠(ひすい:つやのある緑色の硬玉)や碧玉(へきぎよく:不透明で緑・赤・黄褐色など色のついた塊状の石英)のこと。古くから勾玉(まがたま)や管玉(くだだま)に用いられた。

### ●カムイヤキ

奄美諸島に属する徳之島伊仙町の山中に分布するカムイヤキ古窯跡群で、11~13世紀に生産された無釉の焼締の陶器。鹿児島県の薩摩半島から琉球列島全域に分布する。

### ●青磁

釉薬が緑か青色系の色調となる磁器。古くから中国をはじめ、朝鮮、日本、ベトナム、タイ、ミャンマーなどで生産されている。日本や沖縄で出土する中国産青磁の多くは、元から明代にかけて浙江省の龍泉窯及びその周辺で生産されたもの。

### ●白磁

白磁の素地に透明釉をかけ、高温で焼成した磁器。古くから中国をはじめ、朝鮮、日本のほか、ヨーロッパでも生産される。沖縄で出土する中国産白磁は、稀に定窯産もあるが、大部分は明代の景德鎮や中国南部を産地とする。

### ●生活習俗

生活していく上での習わしや風習。

遺跡遠景



ピロースク遺跡は、石垣島内陸部の石灰岩台地上に形成された遺跡です。1981・1982(昭和56・57)年にかけて行われた発掘調査の結果、この遺跡は12世紀後半(新里村期)から13世紀末~14世紀頃(中森期初期段階)にかけての集落遺跡であることがわかりました。発掘調査では、住居跡や人骨が埋葬された墓などの遺構のほか、土器、石器、玉類、貝製品、そして外部の地域との繋がりを示す鹿児島県徳之島産カムイヤキや中国産青磁・白磁、中国産銭貨などの遺物が得られています。また、口縁の断面が「く」の字状に曲がる土器は「ピロースク式土器」と名付けられました。中国産の白磁の碗の中でも、胴部がやや丸みを帯びて口縁が内彎する形(内側にすぼまる)のものは「ピロースクタイプ」として分類されています。

また、発掘調査の結果、ピロースク遺跡では屋敷などを囲う石積みは13世紀頃には見られず、14世紀頃から築かれることがわかりました。

これらの成果からピロースク遺跡は、八重山の土器の移り変わりや、生活習俗、外部との交流などを考える上で重要な遺跡と言えます。

### 【参考文献】

- ・石垣市教育委員会。1983。『ピロースク遺跡』。
- ・大濱永亘。1999。『八重山の考古学』。先島文化研究所。
- ・石垣市総務部市史編集課編。2009。『石垣市史考古ビジュアル版 第3巻』。

発掘調査風景



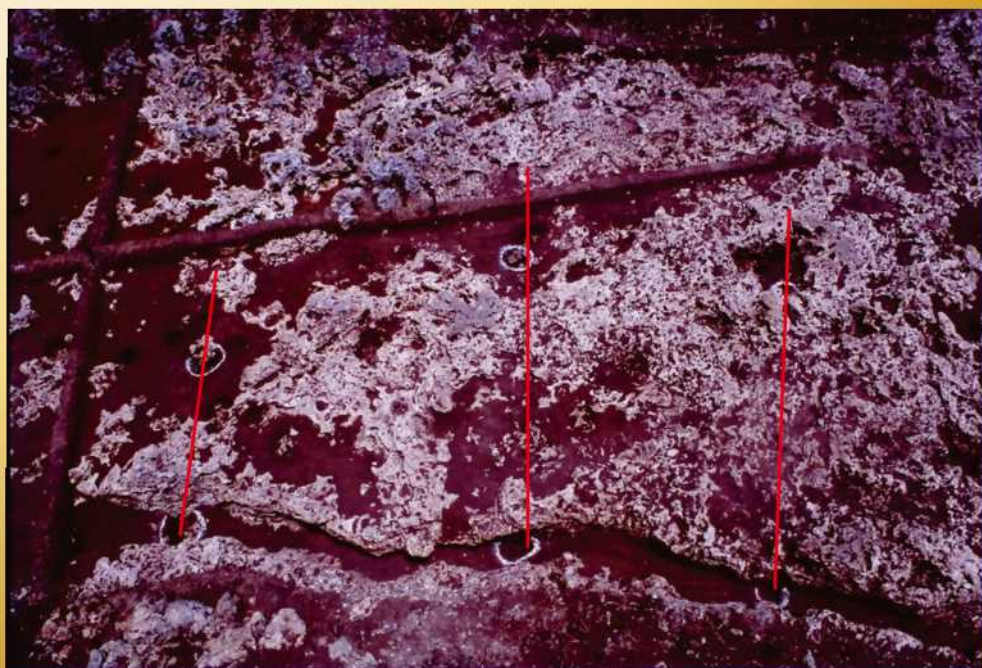
遺跡遠景



12世紀後半～14世紀にかけての土器の移り変わりや  
他地域との交流を知る事ができる集落遺跡



埋葬人骨及び  
石積み遺構



長方形平地式住居跡

●ピロースク式土器



●白磁



カムイヤキや  
青磁など  
島外で作られたものも  
見つかったんだね。

この時期から鉄鎖などの鉄製品が  
入ってきたので、無土器期に多く出  
土した石器の使用が少なくなった  
と考えられるのだよ。また、装身具  
と考えられる骨製品や、炭化米や  
炭化米も出土しているのだよ。



●出土遺物（貝製品・玉類・骨製品）



# 糞石 (ウンチ) の出土

ためになるかも!? ちょこっとコラム



糞石とは、動物やヒトのウンチが化石化したものです。通常は土の中で分解されるためなくなりますが、保存される環境がよければ、当時の形を保ったまま、数千年も残ることがあります。

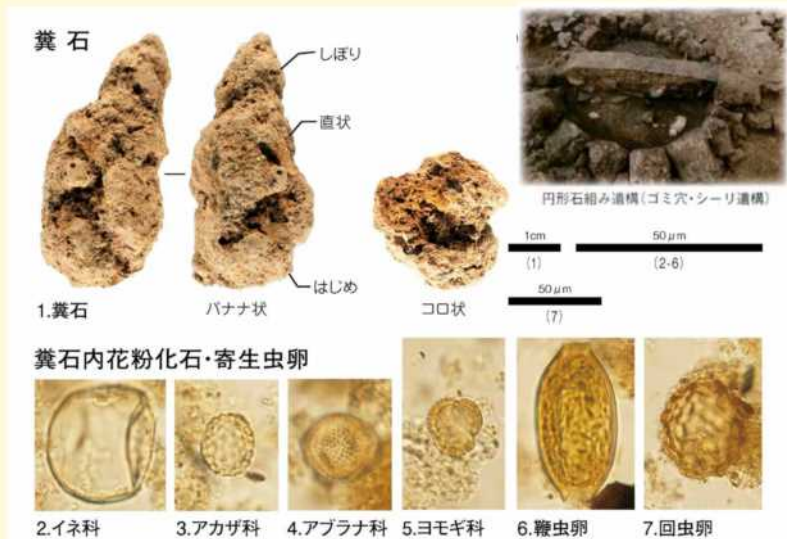
2007(平成19)年度に実施した首里城跡御内原北地区の発掘調査では、石を円形に積み上げた遺構の中から、糞石が出土しています。出土した当初は、やや固めの茶色い物体でしたが、現在は乾燥して白っぽく変色しています。

遺構内の土砂をすべて持ち帰り、土の中に含まれる細かい遺物を回収する目的で水洗選別を行いました。その中から、糞石と思われる遺物をひろい上げ、重さを量ったところ合計で3.3kgもありました。そのほか、遺構の中からは17世紀前半に製作された陶磁器類や動物の骨、植物の種子も出土しています。これらのことから、遺構は17世紀前半のゴミを捨てる施設で、その中にウンチや生ゴミなどをまとめて捨てていたことがわかりました。また遺構内の土砂は、堆積の状況から、ゴミがいっぱいになると、かき出して再利用したことが考えられます。

出土した糞石は、その中に含まれる細かい遺物や花粉、寄生虫卵などを確認する分析を行いました。その結果、細かい魚骨や寄生虫卵(回虫・鞭虫)のほか、イネ、アブラナ、ヨモギの花粉が含まれていることがわかりました。寄生虫卵の一種である回虫卵は、ヒトに寄生する種類の寄生虫卵である可能性があります。この結果から、出土した糞石はヒトのもので、そのウンチの主は、寄生虫に汚染された水や生野菜を食べていたことが考えられます。このような分析から、首里城にくらした人たちの食料や健康状態、自然環境の一部を知ることができます。

さらに、首里城に関する「冠船之時御座構之図」などの絵図資料をみると、ある部屋の一角に「糞箱」または、「小便筒」という文字が見えます。この資料と今回の出土状況を合わせて考えると、首里城には現在のようなトイレや便器がなく、木箱や陶器の壺などの容器にウンチをし、その後、石組みのゴミ穴に捨てていたことが想定できます。

沖縄県における糞石の出土は、今のところ首里城と北谷町の伊礼原遺跡の2か所だけです。伊礼原遺跡の糞石は縄文時代前期のものとなれ、イヌなど動物のウンチの可能性もあります。福井県の鳥浜貝塚からは、縄文時代の糞石が大量に出土しており、その形から「バナナ状」、「コロ状」、「チビ状」に分けられています。このうちバナナ状の部位の名前は、「はじめ」、「直状」、「しぼり」に分けることができ、首里城跡から出土した糞石も、この分類にあてはまります。



【画像の出展】  
・沖縄県立埋蔵文化財センター、2010、『首里城跡：御内原北地区発掘調査報告書(1)』。

波照間

おおどまりはま  
**大泊浜**  
かいづか  
**貝塚**

竹富町字波照間



24° 4' 15.28" N  
123° 46' 38.45" E

用語解説

- 白磁  
白磁の素地に透明釉をかけ、高温で焼成した磁器。古くから中国をはじめ、朝鮮、日本のほか、ヨーロッパでも生産される。沖縄で出土する中国産白磁は、稀に定窯産もあるが、大部分は明代の景德鎮や中国南部を産地とする。
- 褐釉陶器  
酸化鉄を含む釉薬をかけて焼成した陶器。
- カムイヤキ  
奄美諸島に属する徳之島伊仙町の山中に分布するカムイヤキ古窯跡群で、11～13世紀に生産された無釉の焼締の陶器。鹿児島県の薩摩半島から琉球列島全域に分布する。
- 土坑墓  
地面に穴を掘り、遺体を埋葬した墓。

【参考文献】  
・沖縄県教育庁文化課編。1986。  
『下田原貝塚 大泊浜貝塚』沖縄県教育委員会。  
・安里進・春成秀爾。2001。  
『沖縄県大泊浜貝塚』国立歴史民俗博物館春成研究室。

遺跡遠景



おおどまりはまかいづか ほてる まじま  
大泊浜貝塚は波照間島北岸近くに位置する土器を持たない先島先史時代無土器期の貝塚です。沖縄県教育委員会による発掘調査が、1983～1985(昭和58～60)年度にかけて実施されました。その結果、東側に隣接する下田原貝塚の地層よりも大泊浜貝塚の地層が上にあり、「下田原式土器」を持つ文化が、先島先史時代無土器期の文化より古い事が確認されました。

しゅつど いぶつ せきふ かいせいひん  
出土遺物として、石斧等の石器や貝製品のほか、はくじ かつゆうとうき かつせきせい いしなべ  
白磁や褐釉陶器、カムイヤキ、滑石製石鍋等12世紀に位置づけられる遺物も出土しました。

どこうぼ まいそう じんこつ ほくくつ  
なお、土坑墓に埋葬された三体の人骨が発掘されましたが、これらは大泊浜貝塚時代のもではなく、後の時代の埋葬人骨と考えられています。



中国産白磁碗

●礫床住居跡



下田原期と無土器期の先後関係を明らかにした遺跡



● 第1号埋葬人骨

どうして土器を使わなくなったのかな？



● 第3号埋葬人骨

集石が確認されたので、焼石調理が行われたのではないかと考えられているのだよ。





町指定史跡

しんざとむら  
**新里村**  
いせき  
**遺跡**

竹富町竹富

竹富町



24° 20' 15.72" N  
124° 5' 21.68" E

町指定史跡 (平成3年9月11日)



用語解説

●白磁

白磁の素地に透明釉をかけ、高温で焼成した磁器。古くから中国をはじめ、朝鮮、日本のほか、ヨーロッパでも生産される。沖縄で出土する中国産白磁は、稀に定窯産もあるが、大部分は明代の景德鎮や中国南部を産地とする。

●青磁

釉薬が緑か青色系の色調となる磁器。古くから中国をはじめ、朝鮮、日本、ベトナム、タイ、ミャンマーなどで生産されている。日本や沖縄で出土する中国産青磁の多くは、元から明代にかけて浙江省の龍泉窯及びその周辺で生産されたもの。

●褐釉陶器

酸化鉄を含む釉薬をかけて焼成した陶器。

【参考文献】

・沖縄県教育庁文化課編。1990.『新里村遺跡』。沖縄県教育委員会。

東遺跡 近景



新里村遺跡は、竹富島の北岸近くに位置する集落遺跡です。竹富島一周道路の建設に伴い、1986～1988(昭和61～63)年度にかけて沖縄県教育委員会による発掘調査が実施されました。

この遺跡では、花城井戸(ハナクンガー)という井戸を中心として東側に12～13世紀の集落、西側に14世紀の集落が形成されています。東側の集落では石積みは見られませんが、より新しい西側の集落では高い石積みに囲まれた屋敷跡が連なり、屋敷と屋敷の間は通用門で結ばれていました(現代の集落のように道路による区画はありませんでした)。

出土遺物として、中国産の白磁、青磁、褐釉陶器や産地不明の鉄鍋や刀子(小刀)等が発見されました。また、島内で焼かれた「外耳土器」、「鍋形土器」、「壺形土器」が出土しています。

新里村遺跡は、島の歴史を知るうえで重要な遺跡として、1991(平成3)年に竹富町の史跡に指定されました。



亀甲墓

西遺跡 2号屋敷



八重山の集落跡を研究する上で重要な遺跡



西遺跡 3号屋敷南西部



家同士が通用門で結ばれていたって、みんな仲が良かったのかなあ。

東遺跡 掘立柱建物跡



西側の遺跡では、集落全体が細胞のように通用門で結ばれていたのだよ。また、「無土器期」から、再び土器の使用が始まった「新里村期」にかけての遺跡として知られている。ここから出土した土器は「新里村式土器」と呼ばれているのだよ。



# 与那国町

# 与那原遺跡

与那国町与那国



24° 27' 12.46" N  
123° 1' 15.8" E



## 用語解説

### ●高宮廣衛

1928 (昭和3) 年生まれ、2015 (平成27) 年没。那覇市出身。考古学者。沖縄諸島における考古学の土器研究の基礎を構築した。著書『沖縄縄文土器研究序説』、『沖縄の先史遺跡と文化』など。

### ●礎石

建築物の柱の下に置かれ、その沈下を防ぐ働きをする石。

### ●鍛冶

純度の高い鉄を生産した後、これらを熱して打ち鍛え、種々の鉄製品をつくること。

### ●柱穴

堀立柱建物を建てる時、柱を立てるために掘った穴。

### ●青磁

釉薬が緑か青色系の色調となる磁器。古くから中国をはじめ、朝鮮、日本、ベトナム、タイ、ミャンマーなどで生産されている。日本や沖縄で出土する中国産青磁の多くは、元から明代にかけて浙江省の龍泉窯及びその周辺で生産されたもの。

### ●白磁

白磁の素地に透明釉をかけ、高温で焼成した磁器。古くから中国をはじめ、朝鮮、日本のほか、ヨーロッパでも生産される。沖縄で出土する中国産白磁は、稀に定窯産もあるが、大部分は明代の景德鎮や中国南部を産地とする。

第2号～第4号土坑



1954 (昭和29) 年4月に高宮廣衛氏によって発見された、祖納集落南東の台地上に立地する遺跡です。その後、青山学院大学や与那国町教育委員会による調査で、遺跡の詳しい状況がわかりました。

遺構として、礎石をもつ住居跡や倉庫跡、鍛冶屋跡、柱穴、排水溝等が確認されました。出土した青磁、白磁、褐釉陶器などの輸入陶磁器の年代から、14～16世紀初頭にかけての集落跡であることがわかりました。

言い伝えによると15世紀末、宮古島の仲宗根豊見親が石垣島のオヤケアカハチを倒した後、まもなく仲宗根豊見親の息子である仲屋金盛が与那国島に攻めてきました。その際、ドゥナンバラ (与那原) ムラは焼き払われ、按司も殺されたと伝えられています。柱穴の中からは、焼けた柱材が発見されており、伝承との関係をうかがわせる資料として興味深いものがあります。

出土状況で目を引くのは、製鉄に関係するふいごの羽口がまとまって発見されたことです。特に砂岩製の大型の羽口については、県内で他に出土例は無く貴重です。

### 【参考文献】

- ・与那国町教育委員会。1988。『与那原遺跡：個人農家の畑地改良等に伴う緊急発掘調査報告』。
- ・沖縄県教育委員会。1980。『竹富町・与那国町の遺跡：詳細分布調査報告書』。
- ・仲屋久宜・羽方誠。2009。「与那国島で採集した考古資料」。
- ・In: 沖縄県立博物館・美術館 (編) 『与那国島総合調査報告書』。

発掘調査風景



周辺にいくつもの遺跡があるんだね。どれくらいの人が住んでいたのかな？



遺跡遠景



沖縄県内で例のない砂岩製の大型の羽口が出土した遺跡



遺物出土状況



排水溝及び遺物出土状況

ファイゴの羽口が出土しているので、製鉄が行われていた事がわかるのだよ。



●褐釉陶器

酸化鉄を含む釉薬をかけて焼成した陶器。

●仲宗根豊見親

仲宗根豊見親玄雅。生没年未詳。宮古歴史上の英雄。1500年、首里からの八重山征討軍に参加し、オヤケアカハチを倒した。

●オヤケアカハチ

生没年未詳。波照間島の生まれと伝わる。15世紀末、石垣島大浜村に居をかまえ、近隣を制圧して宮古勢とも対立。その後、首里王府に反旗をひるがえしたが、1500年、首里王府軍と宮古の仲宗根豊見親の軍勢によって倒された。

●仲屋金盛

仲屋金盛豊見親玄武。生没年未詳。仲宗根豊見親玄雅と共に八重山に出陣し武功をあげ、父の跡をついで宮古島の頭(島役人の最高職)

●按司

13世紀ごろに誕生した地域の支配者。

●ふいご

鍛冶炉内への送風器。炉とふいごの間に羽口が付く。

●羽口

ふいごと炉の間に取り付ける。ふいごから炉に送られる風が通る管。

# 島仲村跡 遺跡

与那国町与那国



24° 27' 34.38" N  
122° 59' 56.18" E



## 用語解説

- 名勝  
庭園、橋梁、溪谷、海浜、山岳などで、景色のよい場所。
- ティンダバナ  
与那国町祖納の南側に、屏風(びょうぶ)のようにそそり立つ、高さ100m近くの断崖。
- サンアイ・イソバ  
生没年未詳。15世紀末、与那国島を統治したといわれている女性。
- 白磁  
白磁の素地に透明釉をかけ、高温で焼成した磁器。古くから中国をはじめ、朝鮮、日本のほか、ヨーロッパでも生産される。沖縄で出土する中国産白磁は、稀に定窯産もあるが、大部分は明代の景德鎮や中国南部を産地とする。
- 青花  
中国産の染付(白地に青色の模様がある磁器)。
- 褐釉陶器  
酸化鉄を含む釉薬をかけて焼成した陶器。
- 慶田崎遺跡  
与那国町久部良の久部良小学校北側にある14~15世紀の集落遺跡。
- マイヌトゥニ  
マイヌは「前の」の意味。トゥニは村の御嶽を祀る宗家を指す言葉で、その家があった場所が挿所になったと考えられている。
- ウガン  
御嶽。
- ビディリ  
霊石。沖縄島でビジュアルなどと呼ばれるもの。

## サンアイ・イソバ生誕地



祖納集落の南方、国指定名勝「ティンダバナ」を含む台地一帯に分布する集落跡です。島仲村は、15世紀に与那国島を統治した女首長サンアイ・イソバが生まれた場所と伝えられています。

広大な遺跡ですが、遺物の分布は幾つかの固まりとして散在していることから、集落は一つではなく、幾つかに分かれていたと考えられます。

最も古い遺物として、13世紀後半の中国産白磁碗が採集されていますが、多いのは14・15世紀の遺物です。白磁や青花は少なく、褐釉陶器と「八重山式土器」が多い傾向は、同じ与那国島内の与那原遺跡や慶田崎遺跡と同じです。これらの点から、三遺跡は同時期に存在していたと考えられます。

その他、島仲村跡内のマイヌトゥニ一帯は、近世の旧集落の石積みや井戸等が良好な状態で残されており、現存するウガンやトゥニ、ビディリなどは現在も島仲村にルーツを持つ人たちの祭祀の対象となっています。さらに明治時代の屋敷配置を知ることができる絵図も残されていることから、13世紀頃から近代までの与那国島における集落のあり方を考えるうえで貴重な遺跡です。

## 【参考文献】

- ・与那国町教育委員会。2002。『島仲村跡遺跡:島仲地区遺跡詳細分布調査に係る調査報告書』。
- ・沖縄県教育委員会。1980。『竹富町・与那国町の遺跡・詳細分布調査報告書』。
- ・仲座久宜・羽方誠。2009。「与那国島で採集した考古資料」。  
In: 沖縄県立博物館・美術館(編)『与那国島総合調査報告書』。

1200	1300	1400	1500	1600	1700	1800	1
グスク時代		三山	第一尚氏	第二尚氏(前期)	第二尚氏(後期) 近世琉球		
新里村期			中森期		バナリ期		

● 溝状遺構



13世紀頃から近代までの集落の変遷がわかる遺跡



● アラガウガン



広い合地上に  
いくつもの村が  
あったんだね。



この遺跡からは、輸入陶  
磁器やカムイヤキ、土器  
や石器、鉄製品などが出  
土している。また屋敷跡  
や井戸、古い墓なども確  
認されているのだよ。



● 遺跡遠景



● 古墓

